

# 原文から書き下し文へ

## 学習ポイント 1 | 漢文の書き下し文

返り点・送り仮名を読み取り、文語の形を保って書き下します。現代語訳との違いも説明できるようにしましょう。

### 三つを区別しよう

原文「読書」は漢字の元の並び。訓点付き漢文は、読むための返り点・送り仮名を後から加えたもの。書き下し文は「書を読む。」。現代語訳は、意味を今の言葉で説明した「本を読む。」です。

### 書き下しの手順

- ①返り点で読む順を確認する。②送り仮名を平仮名にする。③文語・歴史的仮名遣いを保つ。
- ④返り点を残さず、意味の抜けを確かめる。

1 ム  
2 レ  
読  
書

教材で訓点を付けた漢文

教材用作例

# 読む字と独立して読まない字

## 学習ポイント 2 | 漢文の書き下し文

### 不は打消しを表す

「不読書」は「書を読まず。」。不は後から「ず」と読むので、意味を消してはいけません。読マ＋不ズのつながりに注意します。

### 置き字の例 而

「学而時習之」は、この教材では「学びて時に之を習ふ。」と読みます。而は独立して読まない置き字ですが、つなぐ意味は「学びて」の「て」に表れます。どの文でも同じ処理になるとは限りません。

### 表記の約束

「習フ」は「習ふ」、「思ヒテ」は「思ひて」。現代語の「習う」「思って」に置き換えるのは、書き下しの作業とは違います。

1

学

ビ  
テ

2

而

3

時

ニ

4

習

フ

5

之

ヲ

教材で訓点を付けた漢文

『論語』学而第一 1・1

# 再読文字は二度読む 基本の未

学習ポイント 3 | 漢文の書き下し文

## 未だ ~ず

「未」は、初めに「いまだ」、後から「ず」と読みます。未→学→未の順になり、書き下し文は「未だ学ばず。」。意味は「まだ学んでいない」です。右側の括弧内「ズ」は後の読みを示す補助表示です。

## この単元の読み方

訓読には別の読み方がある語もあります。ここでは示した送り仮名と語注に従います。「温」は「たづぬ」、「慍」は「うらむ」。表記の許容は各解答に示します。

## 読み取った後に確かめる

書き下し文が作れても、内容が分かったとは限りません。誰が何をするのか、打消しはどこまでかを語注と合わせて説明しましょう。

1

未

ダ

2

学

バ

再読文字の基本例

教材用作例

## 原典と教材の利用について

### 出典確認 | 原文と教材の追加部分を区別します

古代中国の原典本文のみを短く抜粋しています。現代の翻訳・注釈・問題文を転載せず、語注・前後の説明・訓点・解説・設問は本教材用に作成しました。字体や句読点を読みやすく整えた箇所があります。

論語 学而第一 1・1

[原典の電子本文を開く](#)

學→学。句読点・訓点・語注・書き下し文・現代語訳は本教材独自。

論語 為政第二 2・11

[原典の電子本文を開く](#)

溫→温。訓点・語注等は本教材独自。温は本教材で『たづぬ』と訓む。

論語 為政第二 2・15

[原典の電子本文を開く](#)

學→学。訓点・語注等は本教材独自。

「教材用作例」は練習のために作った短文で、古典からの引用ではありません。原典本文と追加した訓点を区別して使いましょう。